

佐賀県研究成果情報

カンキツ新品種「佐賀果試2号」の品種特性					
【要約】 カンキツ新品種「佐賀果試2号」は、「サガマンダリン」を交配母樹として花粉親に「ハムリンオレンジ」を用い育成した新品種で、「清見」に比べ果皮色が紅く糖度がやや高い。					
果樹試験場・品種開発研究室				連絡先	0952-73-2275
部会名	果樹	専門	品種	対象	その他カンキツ

【背景・ねらい】

年末・年始期における県内でのカンキツ栽培品種は、「ポンカン」の他に経済栽培可能な品種が少なく、栽培可能な地域も限定されている。このため、単胚性品種を母本とした交雑育種により、本県の気候に適応した中晩生カンキツを育成する。

【成果の内容と特徴】

1. 樹勢は中程度で、樹姿はやや直立性で樹冠は長円形を呈する。枝梢の長さは中程度、葉の大きさも中程度であり「清見」よりやや大きい。葉身の形は卵形である。
2. 花は単生有葉花が中心である。かいよう病やそうか病については、通常の管理作業を行っていれば発病はみられない。
3. 果実の大きさは200g以上で、果形は扁球形で果形指数は120程度である。果皮色は濃橙色で清見に比べ紅が濃い。果皮は滑らかであるが剥皮性はやや難である。
4. さじょうの大きさは中で、果汁は多く肉質は柔らかく、す上がりもみられない。じょうのう膜は薄く、袋ごと食べられる。香りについては「サガマンダリン」特有の香りではなく、「ハムリンオレンジ」の芳香がある。
5. 果汁の糖度は12%弱であるが、食味は良好である。減酸については「清見」と同程度である。種子は平均で2～3個程度であり、無核果もみられる。

【成果の活用面・留意点】

1. 本品種は露地栽培において、収穫期は1月中旬頃であるが、成熟期は2月上旬頃である。
2. 果皮が強く浮き皮にもならないため、施設用カンキツ品種としても検討する必要がある。
3. 栽培特性は、現在調査中であり、品種登録申請の準備を行っている。

[具体的データ]

表1 カンキツ新品種「佐賀果試2号」の果実品質比較

2001.1.15 調査

	平均 果重	果形 指数	着色 歩合	果肉 歩合	果皮 色	含核 数	糖度 %	クエン 酸含量 %	糖酸比
	g								
佐賀果試2号	229.0	121	10.0	82.1	8.8	2.0	11.4	1.31	8.9
清見	262.8	118	10.0	77.9	7.1	1.2	9.7	1.31	7.5
勝山イヨ	260.8	117	10.0	72.4	7.0	7.0	10.6	1.18	9.0

) 果皮色は、旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャート(オレンジ色系)による

表2 カンキツ新品種「佐賀果試2号」の果実品質

調査日	平均 果重	果形 指数	着色 歩合	果肉 歩合	果皮 色	含核 数	糖度 %	クエン 酸含量 %	糖酸比
	g								
1998.12.25	261.1	114	10.0	78.3	7.9	3.2	10.7	1.37	8.0
1999.12.25	251.0	119	10.0	77.9	8.0	1.2	10.1	1.38	7.3
2001.01.15	229.0	121	10.0	82.1	8.8	2.0	11.4	1.31	8.9

) 果皮色は、旧農林水産省果樹試験場作成のカラーチャート(オレンジ色系)による

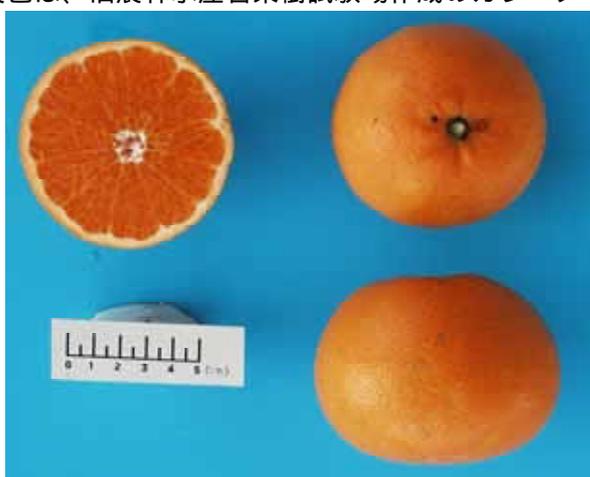


写真1 「佐賀果試2号」の果実

[その他]

研究課題名：交雑育種法による早期出荷可能な中晩生カンキツ品種の開発

予算区分： 県 単

研究期間： 平成11年～平成20年

研究担当者：松尾洋一、大藪榮興、八田聡、大原有美子、末次信行

発表論文：園芸学会九州支部研究集録(第9号)